

短い文章ですので伝えきれないことも多いと思いますが、この八重山病院での研修で私が思うことは、「行って良かった!!」ということです。医師としての自分の経験、八重山病院のスタッフとの知り合えたこと

など、得るものが非常に多い3ヶ月間でした。今後、八重山病院だけではなく、若い先生方が離島研修に対して積極的に参加して欲しいと思います。楽しみながら充実した研修ができるはずですよ (^-^)

初期臨床研修半年を過ぎて思うこと

中頭病院初期臨床研修医1年目 比嘉 章太郎 (23期生)

3月の合格発表の浮かれ気分から一転、4月に入り初期臨床研修医として早半年が過ぎました。オリエンテーションの頃に先輩方から言われた「同期で集まれるのは今しかないよ」という言葉が身にしみる今日この頃です。今では各科での研修により終わる時間帯や、活動する病棟が違っていたり、同じ病院にいてもなかなか会えない同期もいます。

最初の頃は電子カルテの使い方がわからず、医療業務すらまともに行えず、オーダーの仕方から丁寧に教えて頂いた先輩方、ありがとうございました。そしてこれからは迷惑かけてばかりかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

何事も経験することが大事だと言いますが、経験したことで無駄だったと思うことは何一つもないなと感じております。特に失敗して学んだことは、私自身の中で教訓となり、これから続く医師人生のなかで支えになってくれるものと信じています。失敗して、怒られた分だけその支えが太くなってどんと構えられるのかもしれないと感じています。患者さんもどんと構えているほうが安心できますよね。しかしそれがいつの日になるかは皆目検討もつきません。

時間というものは早いもので、あっという間に一日・一週間・一ヶ月と過ぎていってしまいます。日々の業務に忙殺され、時々患者さんのことを本当に考えてあげられている時間を失ってしまいそうになります。そんなとき私の座右の銘である「医療は国民のためにするもの」という言葉を思い出し、患者さんのいるベッドサイドに足を運ぶようにしています。医療は患者さんのために行うもので、患者さんから学ぶものだと思います。退院されるとき笑顔・ありがとうねという言葉が頂いたときのうれしさと言ったら例えようがありません。私がしたことは cure ではなく care に近いかもしれませんが、それでも患者さんのためになれたならそれにこしたことはありません。

半年たった今でも、おおよそ医学のことなんてこれっぽちもわからないような、地球に人間が誕生したくらい少しの、本当に少しの知識しかまだ身につけていないようで、わからないことだらけです。それでも、患者さんを含め病院に関わった方々、沖縄県民の皆様、引いては日本国民の皆様、私は少しでも役に立てているのでしょうか？日々成長していきますので、温かく見守っていただければ幸いです。

